

新 入留学生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活への期待と不安でいっぱい的心境かと思えます。私も同じ気持ちで入学しましたが、4年間の大学生活を振り返ってみると、忘れられないことがたくさんあります。平成十七年三月に高崎経済大学経済学部を卒業した私は、京都大学大学院経済学研究科の修士課程を修了し、現在は中国で働いています。この場を借りて、特に留学生の皆さんに、大学生活に関するいくつかのアドバイスしたいと思います。

その前に、いくつかの質問を皆さんに考えてもらいたいです。つまり、「何のために留学に来たのか、日本の大学で何を学びたいのか、卒業後どんな仕事をしたいのか」ということです。もちろん、その答えは、今現在はっきりと分からなくても大丈夫ですが、今後こうした問いを頭の中に置くべきです。日本に来た原点は人それぞれですが、これを常に考えていると、自分の行動を正しい方向に導くことができます。しかし、明確な人生観を持つのが大切だといえ、留学生にとって、やはり大学生活の中で一番不安を感じるのは、勉強とアルバイトです。以下で、自分なりの解決法を紹介しましょう。

君ならできる！君ならなれる！
君も夢を実現しよう！
本学卒業生それぞれの歩み

もん・リーちゃん
1976年生まれ。中国河北省出身。
2005年3月高崎経済大学経済学部卒業。2007年3月京都大学大学院経済学研究科修士課程修了。

門立升

(2005年卒業)

勉強の面について、まず挙げられるのは日本語の問題です。日本の大学に入ってきて、先生の授業や難しい教科書が理解できないと、悩んでいる留学生は多数見られます。確かに、大学では日本語学校での聞き慣れた日常的な日本語は少なく、代わりに専門用語がよく使われています。私も最初それに慣れることができなかった大変苦労しました。こうした問題を解決するためには、日本語の文章を大声で音読するしかありません。読む材料としては、教科書はともかく、日本経済新聞の社説や関心を持った記事がいいでしょう。普段の生活でちよつとした時間を使って、こうした訓練を続けると、日本語能力は上達するはずですよ。

次に、ゼミに関して少し話をしようと思います。中国と違って(筆者は中国人)、日本の大学はゼミという特殊な勉強の場を設けています。つまり、専門領域の中で同じ研究テーマを考えている何人かが集まって、共同で研究したり議論したりする場です。留学生にとって、ゼミに積極的に取り組むかどうかで、大学生活の明暗がわかれます。なぜかという理由には以下の3つです。その1、ゼミでの発表、議論を通して、日本語の表現力や反応の速さが鍛えられる。その2、一人で引きこもって、勉強するより同じ問題意識を持つ仲間と一緒に研究したほうが、もっと楽

留學生へのメッセージ

しく効率的にもなる。その3、日本人の友達ができ、日本社会をより一層肌で理解できるということです。

また、図書館を上手に利用することも重要です。学習生活のなかで、理解しきれない問題はこれからたくさん出てきます。難問にぶつかったら、逃げだしたりせず、先生に聞くか、自分で図書館へ行って、答えを探すことが大切です。図書館には、多種にわたる専門書がそろえられているので、役に立つ本は必ずあります。自分で本を見つけ出し、調べて、問題を解く習慣を身に付けておけば、一生の宝となるでしょう。専門書以外、新聞や雑誌、入門書、小説、歴史書などもたくさん置いてあるので、趣味の読書で行くのもいいと思います。本は人生観や価値観、ものの考え方も変えるほど大きな影響力をもっています。ものを言わぬ先生といっても過言ではありません。学生生活の中で人生の糧となる本と出会えるかもしれません。

留學生はアルバイトをする人がほとんどだと思います。大学に入ってから、すぐに直面する問題は、勉強とアルバイトの両立です。何のためにアルバイトをするのかと聞かれたら、「お金のためです」と正直に答えてくれれば結構ですが、金をもうけたら、どのように使うかを考えるべきです。前述のように、自分が日本に来た原点を考慮した上で



(筆者は写真左。ゼミの仲間とともに)

その用途を決めたほうが良いでしょう。一方、アルバイトをしているので、当然勉強する時間が少なくなります。ゆえに、限られた時間の中でいかに学習の効率を上げるのが非常に重要な問題となります。こうした問題を解決するには、皆さんは自分に合う学習法を見つけなければなりません。ここで、私は吉田たかよしの『最強の勉強法』(PHP文庫)という本を薦めたいと思います。この本は作者自身の経験から具体的な勉強技術をまとめてあり、とても読みやすいものです。作者は東京大学大学院でバイオテクノロジーの研究に従事しながら、片手間の勉強で国家公務員1種(経済職)試験に二年連続で合格しました。また、NHKアナウンサー、医師、そして衆議院議員の公設秘書というまったく異なる分野の仕事で一人でこなした人です。ほら、これほどすごい人の経験話ですよ。皆さんはこの本を読んで、自分に合う勉強法を見出してみてくださいと思います。

最後に、留學生の皆さんに言いたいことですが、4年間の大学生活は、長いものでもあれば、短いものでもありません。充実できるものでもあれば、空虚になりかねないものもあります。楽勝なものでもあれば、ハードなものでもありません。これから4年間の学生生活において勉強も大事ですが私生活の方も積極的に何事にも取り組んでください。